

## < 高校生が自由研究で沖縄戦の発表 >



先日NHKの「まるっと」で高校生の沖縄戦についての授業風景が放映されました。発表したのは名城大学附属高校1年生の小林希鈴さんです。

希鈴さんは小学校2年生の時、担任の中村圭子先生から先生の父親の戦争体験を聞きました。人間が一瞬で人間でなくなることに衝撃を受け、その後も沖縄戦に関心を持ち続け中村先生とともに沖縄にも行きました。

中村先生は希鈴さんが6年生の時に総合学習の講師として父親の戦争体験を語りました。中村先生と交流を続けた希鈴さんは名城大附属高校で講演をしてほしいと依頼しました。が、先生からは「あなたが語りなさい。」と言われ父親の手記を見せられました。若い人が戦争体験を語り継いでいくことが大切だと中村先生は考えたからです。



3人の兵士に爆弾を背負わせ戦車に体当たりさせることを任務とし、自らも重傷を負った父親の手記をともに読みながら中村先生は希鈴さんの発表をサポートしました。中村先生自身はサマセミでこれまでも講座を開いて語ってきましたが、若者たちが語り部となっていくことが大切だと思っています。

実は私の妻が再任用で勤めた時に6年生の希鈴さんを理科専科として受け持ちました。中村先生とも親しい同僚でした。NHK出演の知らせを中村先生から受け、録画して「希鈴ちゃんの良い子だった。」と嬉しそうに観ていました。

小学校2年生の時の学習がその後ずっと継続され、自らが語り部の一人になっていく—この息の長い「探求」に感動です。

希鈴さんは同朋高校でも授業をすることが決まったそうです。



\* 分散登校の期間、自由研究も家庭学習の一つとして取り組んでほしいですね。

### <オリンピック史上最も有名な写真>



1968年オリンピックメキシコ大会、男子200m表彰台で黒い手袋のこぶしを挙げて人種差別に抗議する写真です。1位と3位はアメリカ合衆国のトミー・スミスとジョン・カーロスでした。二人は胸に人種差別反対のバッジをつけ、黒い手袋を一つずつ持って表彰台に向かおうとしました。それが何を表すものかを感じ取った2位のピーター・ノーマン（オーストラリア）は「僕にも何かできることはないか。」と話しかけ二人と同じバッジをもらって胸に付けて表彰台に上りました。3人のこの行為はIOCとそれぞれの国オリンピック委員会で問題とされ、黒人の二人は永久追放されました。ノーマンは追放はされなかったものの、4年後のオリンピックにオーストラリアオリンピック委員会は男子陸上短距離に彼を派遣しないことを決めノーマンを排除しまし

た。ノーマンの記録（20秒06）は2017年現在オーストラリアでは破られていません。



スミスとカルロスを記念する銅像が2005年彼らの出身大学であるカリフォルニア州立大学サンノゼ校に建てられ名誉が回復されました。しかし2位の場所にノーマンの像はありません。そこには写真のような文字が刻まれたプレートがあります。

「誰もがこの場所にのぼって、そこで自分たちが信じるもののために立つことができるんだ」というノーマン自身の意志でこのような形になりました。



ノーマンは不遇の人生を送り、サンノゼの銅像建立の1年後に亡くなりました。スミスとカルロスは葬儀に立ち会い彼の棺を担ぎました。ノーマンの死後6年たってオーストラリアオリンピック委員会は彼の功績を称え、国は謝罪をしました。ノーマンの銅像は故郷オーストラリア・メルボルンのレイクサイド・スタジアムの外に建てられています。



負の部分（IOC会長の豪華ホテル滞在、徹底しないコロナ対策など）が多く報じられたオリンピックが終わりました。『映像の世紀プレミアム オリンピック 激動の祭典』で観た有名な“Black Power Salute”の物語に感じるものがあり紹介しました。教科横断学習の材料になりませんか？